

研究・調査報告書

| 分類番号 | 報告書番号 | 担当 |
|---|-------|----------------------------|
| A-134 | A-153 | 15-006 滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 |
| 題名 (原題/訳) | | |
| Associations among depressive symptoms, drinking motives, and risk for alcohol-related problems in veterinary students. 獣医学部学生における、うつ兆候、飲酒動機、アルコール関連問題の関係 | | |
| 執筆者 | | |
| Diulio AR, Dutta NM, Gauthier JM, Witte TK, Correia CJ, Angarano D. | | |
| 掲載誌 | | |
| J Vet Med Educ. 2015 Spring;42(1):11-7. doi: 10.3138/jvme.0914-093R | | |
| キーワード | | PMID |
| アルコール、うつ病、精神的健康、心理相談、獣医学部生 | | 25547905 |
| 要 旨 | | |
| <p>目的： 獣医学部学生は、専門トレーニングをこなす必要があり、ストレスが多い。獣医学部学生におけるうつ病兆候とアルコール摂取の関係および飲酒動機を調査する。</p> <p>方法： 210人の獣医学部学生(男性46人、女性164人、アラバマ州)にアンケート調査(修正版飲酒動機尺度、日常飲酒質問紙、飲酒習慣スクリーニングテスト(AUDIT)、うつ病自己評価尺度)を行い解析した。</p> <p>結果： 対象者の95.5%が過去1週間に何らかのうつ兆候を示し、53%が過去1か月の間に少なくとも一回の過飲をした。上記のような結果は、男子学生により多く見られた。身体や精神状態を改善させることが飲酒の動機となった場合、飲酒パターンに変化を認めた。さらに精神的ストレスは過飲と関連し、これは気分の落ち込みを改善させる目的だった。</p> <p>結論： 本研究で、獣医学部学生におけるうつ兆候は、気分の改善を目的とした過飲と関連することが示された。この結果は、獣医学部学生の精神の健全性促進に特化した介入策の改善に寄与する可能性がある。</p> | | |